



素朴だけれど、とても難解な
子どもの疑問に、著名人が答えます

今月の答える人

レーシングドライバー・自動車評論家
太田哲也さん

プロフィール ● おおた てつや
1959年、群馬県生まれ。武蔵大学経済学部卒業。93年から
ル・マン24時間耐久レースにフェラーリで出場。98年、レー
ス中の事故で重傷を負う。壮絶なりハビリ生活を経てサー
キットに復帰。著書に、「クワッッシュ」「リバーズ」(幻冬舎)な
ど多数。チャレンジする素晴らしさを伝える社会貢献活動「N
PO法人KEEP ON RACING」の代表を務める。

死ぬのはなぜですか？

生きているものが

SAMPLE

(中学二年生・男子)

人 生が順調なとき、僕は「なぜ生きるのか」なんて考えたことはなかった。でもレース事故に遭って将来を見失ったときから、「人はなんのために生きているのか」「なぜあの時、死なせてもらえなかったのか」と常々考えるようになった。君が「なぜ死ぬのか」というギモンを持ったことは人生においてとても大切なことだよ。

とは言え「死ぬのはなぜか」と「なぜ生きるのか」の答えはおそらく一緒だと思う。僕が生きる意味を見だし、また歩き出すようになったのは、事故から一年が経った頃だった。漠然と僕たちの生命を司る「大なる存在」を感じるようになった。事故直後、生死をさまよっているとき、夢の中で黒いマントを着た老人が現われた。彼は「生きる」とはつらいことだぞ」と言った。

僕は彼の言葉の意味を一年間考え続けた。そして分かったことは、「人生は素晴らしきこととして約束されてはいなくて、もともとつらいのだ。でも僕らには、いま、をどう生きるかで人生をプラスに変えられるチャンスは与えられている」ということ。

僕はそれまで、自分の命は自分のためのものだと思っていた。けれども考えてみる



SAMPLE

と、僕らは努力して生まれてきたわけではない。生きる期間を定めることも僕らにはできない。つまり、期間限定のいまを与えられて生かされている。素晴らしい人生を送っている人も、絶望の中にいる人も、やがてゼロに戻る。

そう考えてみると、いまをプラスに変えるためにはチャレンジをすべきなのだ。家に引きこもっていないで外に出るべきだと思った。

かつて新人時代、僕のおきライバルは若くしてレース事故で命を失った。とても悔しく悲しい出来事だった。しかし彼の死は、僕に「彼の分も頑張らなければ」と生きることへの使命感を与えてくれた。生命は期間限定だ。だからこそ、いまを大切に考え、集中できるのだ。そう考えれば、死にも大きな意味がある。

最後に、若い君たちへアドバイス。いまは自分を輝かせることに力を注いでもらいたい。自分を輝かせようと努力する過程こそが尊く、人々に感動や勇気を与える。社会に貢献することにもつながる。自分なりにチャレンジを続けられれば、きっと君が生まれてきた役割が見えてくるはずだ。